

認知症の情報交換・予防・相談ができるカフェ

オレンジカフェ静岡

4/15 2時~4時

飲み物・お菓子
各100円

毎月第三日曜日

映像鑑賞

永六輔さんの「生きる」を観る

元SBSアナウンサー 上藤美紀代がご案内します

永六輔さんが作詞した「上を向いて歩こう」

は、坂本九ちゃんを思い出させるなつかしい曲です。永さんが作詞してヒットした曲には、「見上げてごらん夜の星を」、「こんにちは赤ちゃん」、「遠くに行きたい」などがあり、歌謡曲が好きなのは水原弘の「黒い花びら」などもご存知だと思います。「見上げてごらん夜の星を」は、当時集団就職で上京し、働きながら定時制高校に通っていた若者たちへの応援歌として作詞されたそうです。

また、「上を向いて歩こう」は、「すきやきソング」として世界で大ヒットしました。

まだ経済的にも苦しかった時代に、歌で希望を与えてくれた永さんですが、二年前の七月に八十三歳で亡くなりました。



永 六輔さん
昭和8年~平成 28 年
東京浅草のお寺に生まれる
作詞家・放送作家・エッセイスト

今回、ご覧いただく映像は、永さんが大好きだった甲府の小さな芝居小屋で、親友の「田中泯さん（舞踊家・『たそがれ清兵衛』で最高優秀助演男優賞受賞）と、在宅ホスピス医の内藤いづみさんの三人が、「生きる」をテーマに語り合った時のものです。山梨放送局が制作し放映した貴重な映像です。

永さんはパーキンソン病で車椅子に乗って会場に来ます。また前立腺がんを患っていましたが、笑顔とジョークで会場を沸かせました。そのような状態でありながら「生きる」というテーマで、ジョークを交えて話すことができるのも、永さんならではのこと。東京浅草のお寺に生まれた永さんには、小さい時から、「生と死」について考えながら暮らす習慣があったのだろうと、映像のこやかなお顔を見て改めて思いました。

誕生日に関して次のような逸話があります。永さん、さだまさしさん、和田誠さん、淀川長治さんが同じ四月十日生まれということ、さださんが集まってお祝いしようと皆を誘ったら、淀川さんから、「誕生日はぼくらを祝うんじゃない、産んでくれたお母さんに感謝する日だ」

4月のイベント



恒例の上藤美紀代の

声のワークショップです！

ボイストレーニングと喉を鍛える

トレーニングを行っています

声明コンサートを鑑賞しました。静岡教区浄土宗青年会「仏讃会」の十六名の僧侶が、歌のような読経を披露。お一人おひとりの真心のこもった御声は、大変に力強く響きわたりました。「発声法など考えたこともない」という若い僧侶の粗削りといった御声に惹かれながらも、一方で「オレンジカフェ静岡」に集う皆さまの、人生の深みを感じる温かな御声を改めて素晴らしく思ったのでした。さらに磨きましよう！

(二面からの続き)

と言われたというのです。生きていらっしやればお母さんにご馳走する、もし、もう亡くなられていたら、お墓参りをしなさいと…。いいお話です。

「死」に関しては、冒頭の方で内藤先生に、「あなた（看取り医）には（医療）ミスは絶対にはいりません。皆必ず死ぬのだから」と言っていて、会場を笑わせます。

永さんが亡くなる二年前のエッセイ集『大晩年』に、「若いころは死ぬのは怖い、寂しいこ

とだと思っていたけれど、（中略）実際にその時が近づくと不思議なことにちっとも怖くありません。親しい人が亡くなっていくことに、皆さんが先に行っているというだけの話なんだ、後から行けばいいんだ、と感じるようになったのです」と、ご自分の気持ちを書いていきます。私も年をとって、永さんのこの言葉に共感できるようになりました。前を向いて、今を一生懸命に生きていきたいと思っています。

上藤美紀代さんは内藤先生とお知り合いで、映像の案内をしてくださいます。一緒に鑑賞しましょう。

永六輔『大晩年』2014年 中央公論新社

（小島孝子）

葵区伝馬町・横内

地域包括支援センターがオープン

担当：伝馬町小学校区・横内小学校区

高齢者が安心して相談できる窓口です
お気軽にお電話ください

054-207-8111

住所 葵区音羽町7-18 KGMビル

地域包括支援センターの愛称は



まるけあ です！

会場 静岡市葵区城東町 34-14

城東コミュニティプラザ HapiSpo

会場提供

社会福祉法人 静和会

主催 特定非営利活動法人
ヒューマン・ケア支援機構

連絡先 ☎ 090-5620-6070

✉ orange@npo-humancare.jp

※駐車場有ります



バスでお越しの場合、静岡駅北口5番、6番発の全てのバスがご利用可「巴町」下車 徒歩8分